

例外的に認められた国が二つだけあります。それはオランダと中国です。オランダと中国だけは例外的に日本と貿易をすることができました。日本と関係を持つことができました。ですが、この2カ国以外は日本と関係を持つことができなかったんです。

このように鎖国していた時代の日本というのはなぜ海外と関係を持たなかったんでしょうかー？外国の新しい文化が入ってくるのが怖かったんでしょうかー？外国人が日本に来るのが怖かったんでしょうかー？もしかしたらそうかもしれないですね。今でも、日本という国はあまり外国の人がいませんね。ですから当時も同じように外国から人が入ってくるのを恐れて、鎖国していたんでしょうかー？新しい宗教が入ってきて、日本の仏教とか神道が衰退していくのが怖かったんでしょうかー？

今回、Kが読んだ本「戦国時代と大航海時代」では別の説明がされています。どういうことかという、日本は外国が怖くて、外国を恐れていたから、鎖国した。のではなくて、日本が強い国だったから鎖国することができた。そういう説明をしています。消極的だったから鎖国したのではなくて、強い国だったから鎖国した。これは一体どういうことでしょうか。

戦国時代には日本では戦争ばかりしていました。ですが、その時代スペインやポルトガルは世界に進出していました。そして日本のすぐ近くまで来ていたんですね。スペインやポルトガルはヨーロッパを出て、アフリカに行き、そしてインドまで行って、東南アジアまで来ました。そしてその次に狙っていたのが中国や日本など東アジアです。

中国はそのとき明という国でした。日本は戦国時代で、様々な国に分かれていました。ポルトガルとかスペインは当時本当に強い国でどんどん世界中に進出して最終的に明や日本まで来ようとしていたんですね。

日本とポルトガルの関係について少し話をすると、ポルトガル人が初めて日本に来たのが1543年と言われています。1543年。このとき日本の鹿児島県にある種子島という島にポルトガル人が来ました。そのときに初めて日本に鉄